



はばたきだより



理事長挨拶
理事長 藤本 保

子どもの声を届ける

「アドボカシー活動」

子どもには、生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利があり、この権利擁護を謳った子どもの権利条約は、一九八九年国連総会において採択され日本は一九九四年に批准しました。

この条約の基本的考え方は、四月に施行される「子ども基本法」に取り入れられています。また、四月一日には「子ども家庭庁」が設置され子どもの権利や利益を擁護するための調査や審議が行われることになっています。子ども政策が策定されるにあたって、子どもたちが直接要求することができればよいのですが、残念ながらほとんど困難です。そこで子どもたちに代わって私たちが、「子どもの声」を届けなければなりません。すなわちアドボカシー(Advocacy)が必要なのです。

皆さんあります。この紙面をご覧になってくださっているあなた、心理治療施設で治療している子どもたちのために何をどこに届けたらよいかご存じでしょうか。

現在、わが国では児童福祉法や児童虐待防止法が改正され、法的には子どもの権利擁護が定められています。アドボカシーとしての「子どもの声」を届けるシステムは十分ではありません。新たにできる子ども家庭庁に期待します。アドボカシーとして行動を起こすには何が有効か。最終的に「声を」届ける先は子ども家庭庁になるのでしょうか、政策として実現させるのは政治に他なりません。政治家の選挙公約に着目しましょう。

子ども政策について具体的にどのような方針を掲げているか、何を果たしようとしているかを確認し、子どものための政策に情熱を持っている候補者に是非投票しましょう。我々が確実にできるアドボカシー活動は選挙における投票です。投票という我々の権利を生かしましょう。

施設長挨拶

施設長 高塚 秀夫

日々のあいさつの変化に思いを

玄関先で登校する子どもたちに声をかけると、「おはようございます」「今日、〇先生来る？」「昨日、△食べて美味しかった！」「明日は運動会！見に来て！」「おどけた顔してふざける子、何も言わずうつぶつぶしてしまう子、反応は日々様々です。

はばたきで共同生活する中で、子どもたちは、徐々に日常の安心感や職員への信頼感を覚え、互いの思いやりや「コミュニケーション力」など社会性を身につけていきます。

人との関係性の苦手さは入所児童の多くの子どもたちの課題でもあります。退所時にはある程度うまくあいさつもできるようになります。うまくというのは、きちんと礼儀正しくとまではいなくても、「相手やその状況に応じた返しがある程度できる」という感じでしょうか。不適切ではない、ほどほど、いい案配といった感じ自分で自分をコントロールし他者と折り合いをつける力やコミュニケーション力によって入所

時に比べ格段に備わってきます。

これは、自身の成長と併せて、はばたきでの総合環境療法(生活、心理、教育等)的支援の中で人との関係性が発達し社会性の基盤が備わってくることによる嬉しい変化のひとつです。

さて、明るく元気なあいさつは気持ちのよいものです。SNS社会の現在はコロナ禍の影響もあり直接交わすあいさつも少なくなっているような気がします。皆さん方は家庭や職場、地域でどんなあいさつが交わされているでしょうか。





安心・安全な学校づくり

敷戸小学校はばたき分校・植田東中学校はばたき分校

教頭 後藤 憲治



はばたき分校には、たくさんさんの魅力があります。

① 個別最適な学びを提供する

分校のめざす児童・生徒像の一つに「自分の困りを自覚し、必要な手助けを求めることができる」があります。私たち教職員は、児童・生徒が、学ぶ上で、自分の気持ちを表現すること、自分を大切にしていますが、授業がわからなくて、クールダウン室に行く児童や、泣きながら授業を受けている児童がいるとき、どこにつまずいているのか、どうすれば理解が進むのかと日々自問自答しています。そこで、今年度は研究のサブテーマに「アセスメントに基づいた手立ての工夫とICTの効果的な活用」を掲げ、提案授業を行いながら、

個別最適な学びの実現をめざして研究に取り組んでいるところです。

② 活動の足跡が残る教室

各教室に入ると、教育活動を実践した足跡がたくさん見られます。「かけ算の表」「いとこ探しの木」「稲刈りした稲穂」「書道の作品」等、児童・生徒が振り返ることができるように工夫されています。

③ 季節を感じる図書室

秋を感じる「栗の実」「かぼちゃ」「オオオナモミ」等、季節感満載です。読書活動は、感性を育て、想像の世界を広げられます。毎日図書室へ通う子どもたちは、自然に季節を感じることができるようになっているのです。



分校の様子



様子



いもほり体験活動



学園の畑でさつまいもを育ててきました。畑を耕し、さつまいもの苗を植え、水をやり、除草を行い、厳しい夏を乗り越えて収穫を迎えました。大きく実ったさつまいもを収穫した子どもたちは大喜びでした。自然の恵みに感謝です。

授業風景



個別最適な学びを提供する研究授業の様子です。アセスメントした生徒の実態を基に、ICT機器を活用して支援する授業づくりを行っています。机にはiPadがおかれ、深めた自分の考えを再び入力しています

新人職員紹介



児童指導員 田口 美鈴

私は3か月の管理宿直を経て4月から児童指導員として勤務しています。年齢も50代で、若い職員の方々と一緒に子どもたちの生活のサポートをさせてもらっています。

その中で私が児童との関わり合いで大切にしていることは「笑顔」です。どんな生育歴があろうと、感情のコントロールが苦手であろうと児童が見せる「笑顔」はその児童の安心感であり、生命力であり、「笑顔」になる行動はその児童の強みにもなると思っているからです。

些細なことでイライラする児童でも、自分を

認めてくれる友だちと遊んでいる時や職員に褒められた時、集中して何かをやり遂げた時に見せる「笑顔」はとても尊いものだと思います。子どもたちが安心して笑顔で生活できるよう日々精進してサポートに努めていきたいと思っています。

趣味 韓流ドラマ鑑賞、プロ野球観戦

好きなこと 晩酌

好きな言葉 実るほど頭を垂れる稲穂かな

保育士 加藤 誉子

子どもとの関わりの中で、信頼関係を築くことの大変さを感じています。子どもから「私の気持ちなんて分からないでしょ」と言われた時、なんと応えたらよいのか戸惑いました。その時はただ子どもの話を聞くことしかできませんでした。少しずつ雑談ができるようになりました。どの子どもたちも、表面的には壁をつ

くっているように見えますが、心の奥では話を聞いて寄り添ってくれる大人を求めているように感じます。今後も、子どもたちの気持ちに寄り添いながら支援の幅が広げられるようにしていきたいです。

好きなこと 食べること・寝ること・散歩

心理療法担当職員 野依 矢的

入職した当初、私ははばたきの子どもたちに対してとても規律正しい子どもたちという印象を持っていました。入職して間もない職員が声かけをしても、嫌な顔を一つも見せずに「分かりました」と返事をし、自分たちで生活日課やルールを意識した行動をとり、友達とけんかをしてしまってもすぐに「ごめんね」と謝罪していました。ですが、私の前では規律意識を持ち、大人びた印象を受ける子どもたちも、担当の先生たちの前ではもちろん反発もしますが、私には見せない非常に子どもらしい・その子らしい表情をしていました。

これまでの養育環境の影響で大人に対する恐怖心やトラウマを抱えた子どもたちの多くは、怒られない・暴力を振るわれないために良い子

として過剰に振る舞わざるを得ず、あまりよく知らない大人に対してはなおさら警戒して接していたのではと気づかされ、同時に、虐待による傷の根深さについて考えさせられました。

子どもが表現してくれた気持ち、たとえ嫌な思いや私に対する不満であっても丁寧に受け止めながら、表面に見えてくる状態をそのまま切り取るのではなく、その行動に至った思いや背景に思いを巡らせて子どもと接していきたいと思っています。

趣味 山登りなどアウトドア全般・ゴルフ・ツーリング

特技 空手

好きな食べ物 お肉系

はばたきの新たな取り組み



“はばたき農園”の食農教育

今年度から園内の畑を利用した食農教育を行っています。**食事の好き嫌いをなくす、食べ物大切さを学ぶ一環**として始めました。

あまり農業の知識が職員になく、子どもと職員とが一緒になって試行錯誤



を繰り返しています。

野菜が実るまで長い時間、苦勞を体感し、自分たちで育てたものを食べる経験を食に感謝する経験として積み上げていき

いと思っています。

虫や作物、土に触れながら、四季や自然を感じる取り組みとして今後も継続していきたいと思っています。



グループワーク“おひさま広場”開始

今年度の夏から、①**集団での活動を楽しむこと**、②**活動を通して、対人スキルを獲得すること**、③**自分や他者への気づきを深め、互いに認め合えるようになること**を目的に、グループワーク「おひさま広場」の取り組みを開始しました。

子どもたちには、何事にも楽しく取り組むことで積極的な生活態度を身につけてもらい、ルールを守って行動することで、自分自身にとってプラスの影響があることを実感してもらいたいと思っています。



さらに、子どもたちの多くは、集団場面で“笑われた”、“恥をかいた”等の



傷ついた体験をしています。そうではなくて、みんなで一緒に活動しても、悪いことは起きなくて結構楽しい、ということを感じてもらいたいと思っています。

現在はレクリエーション活動を中心として、子どもたちのグループワークに対する関心・意欲・参加への積極性の形成を図っているところです。



特別活動



コロナの影響で、なかなか楽しい活動ができませんが、少しずつ、外部の方との交流も再開されました!



音楽活動



いつも子どもと遊んでくれたり
音楽を教えてくださいます♪



ロータリークラブ



美味しい手巻き寿司を
作りました!



SUNRISE CAFE



今年はみんなでかき氷を
食べました!



ズンバ教室



ズンバダンスに挑戦しました!



の年間行事

カレーフェス



ユニットごとにカレー作り対決をしました!

卓球トーナメント



みんな真剣にプレーしました!

ハロウィン



みんな可愛いキャラクターになりきっていますー!



BBQ



上手に焼けたかな?

夏祭り



みんなで楽しいヨーヨー釣り♪

はばたきバイキング



美味しそうな料理が
たくさんー!



令和4年度 はばたき

クリスマス会



はばたきの一大イベント!
子どもたちはこの日のために
一生懸命練習しました!





寄付・ボランティアへのご協力 ありがとうございました!!



本年度、寄付金・寄贈品・ボランティア等にご協力下さいました皆様をご紹介致します。 [順不同・敬称略]

音楽ボランティア

- 田口 千里 ● 生田 純子 ● 中村 慎吾 ● 中村 圭志 ● 玉井 鉄兵 ● 阿部亜紀子 ● 生田 明奏

その他ボランティア

- 佐古 健二(美容室gic代表) ● 甲斐 博子(生活支援ボランティア)

特別活動主催

- ロータリークラブ ● SUNRISE CAFÉ



寄付

- 大分県社会福祉協議会 ● 株式会社レイメイ藤井大分支店
- 生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会 大分県協会 ● 大分県農業共済組合 ● 大分銀行労働組合
- 大分県養豚協会 ● 大分1985ロータリークラブ ● むぎの会(NPO法人) ● 九州納豆組合
- NHK歳末助け合い募金 ● 河野 啓子 ● 山本 浩二 ● 高橋 園恵(前教頭)
- 後藤 友美(はばたき分校)

編集後記 ~体験に勝る教訓なし~

読売新聞が発表した「2022年日本の10大ニュース」の第1位は「元首相撃たれ死亡」、第2~9位ではスポーツ関連の話題が半数を占め、そして第10位が「新型コロナ感染者1日10万人超え」でした。明暗さまざまなニュースのなかで、すべての国民に最も身近なトピックはと言えば、間違いなく第10位の「新型コロナ」でしょう。

つまり、現在もなお私たちを苦しめる新型コロナの脅威は、だれもが直面しうる現実的な問題であり、それへの意識を高く保たなくてはならない日常的な課題なのです。しかし、このおそろしい現実是我たちの日常にすっかり溶け込んでしまったがゆえに、慣れてしまったのでしょうか、人びとが感じる衝撃の大きさは上位9つのニュースを下回りました。

決して他人事ではないという怖さを痛感したのは、当施設においてもコロナ陽性者が児童・職員ともに多く出たからでした。令和4年度に起こった当施設でのさまざまなニュースにランキングを付けるなら、他でもない、この「感染拡大の体験」が第1位でしょう。この忘れてはなら

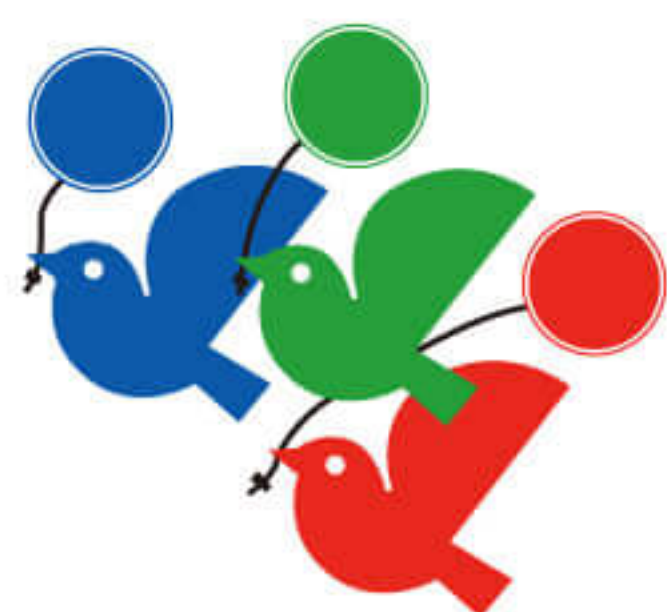
ない事実から見てきた当施設の課題は多くあります。本稿をお読みの皆様が、どうか「非日常」「非現実」だと油断をされませんように、そして皆様に感染の火の粉が降りかからないことを願うとともに、一日も早く、かつての「日常」が帰ってくることを願ってやみません。

さて、今春も『はばたきだより』を発行することができました。原稿執筆依頼を快くお受けくださった理事長先生をはじめとする関係者の皆様、校正作業やレイアウトの打ち合わせから発行まで綿密かつ多大なご協力をいただいた株式会社ひまわり様、そして本号をお読みくださっている皆様に最大の感謝を心より申し上げます。

「愛育学園はばたき」は日頃から多くの方のご支援をいただいております。一方で、まだまだ至らぬ点が多い私共ではありますが、今後も求められる児童心理治療施設としての役割を果たしていけるよう、職員一同、惜しみなく努めて参る所存です。

これからもよろしく願い致します。

令和5年3月 はばたき広報委員 川村 涼太郎



社会福祉法人藤本愛育会

大分こども心理療育センター **愛育学園はばたき**

〒870-0948 大分県大分市芳河原台11番29号

TEL (097)578-7755 FAX (097)578-7756

<http://www.oita-kodomo.net/habataki/>